

令和7年度 学校評価報告書

学校名	武庫小学校
-----	-------

1 学校教育目標

つながり 育む 幸せな学校

2 今年度の学校重点目標

- (1) 「確かな学力」の育成
 - 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の展開
 - 学びを保障する教育環境整備
 - タブレットをはじめとしたICT機器を活用する力の育成
- (2) 「豊かな心」の育成
 - 規範意識や道徳性を育む教育の推進
 - 「共生」の心を育む教育の充実
 - 豊かな人間性と社会性を育む体験活動の充実
- (3) 「健やかなからだ」の育成
 - 子どもの体を育てる教育（身体教育）の推進
 - 体力・運動能力向上をめざした教育、運動を好きになる教育の推進
 - 食育・健康教育の推進
- (4) 多様な教育的ニーズに応じた教育
 - 特別支援教育の推進
 - 児童への相談・支援体制の充実
- (5) 信頼される学校づくりの推進
 - 学校組織機能の強化
 - 教職員の資質向上
- (6) 学校・家庭・地域の連携と協働
 - 地域とともに歩む学校づくりの推進
 - 地域で支える子どもの育成活動の推進
- (7) 勤務時間の適正化
 - 業務改善・校務および行事のスリム化

3 総合的な自己評価

- ・「地域とともに歩む学校づくりの推進」については、学校運営協議会において、育てたい児童像を共有し、意見交換をしながら進めることができた。時程表の見直しや帯時間などについても地域の理解・協力のもとに進んだことは成果である。
- ・授業の「ユニバーサルデザイン化」をテーマに、児童一人ひとりに「感じる・わかる・できる」を味わわせる授業づくりの研究を推進してきた。その研究課程で児童の主体性が養われつつあること、授業に活気が生まれ、昨年度まで研究していた体育から他教科にも波及していることは成果である。
- ・問題行動、不登校については例年同様、発生件数が多い。サポートルーム運営をはじめ、家庭・地域との連携のもと、計画的かつ組織的に指導を進めており、今後も継続する必要がある。
- ・勤務時間適正化を目指し、月曜日5校時を短縮し、会議時間を確保したり、家庭訪問から家庭確認に変更したりするなど業務改善をおこなってきた。また、そうじ時間の短縮、週2回の整頓タイムなど、子どもたちや教材研究に向き合う時間の確保のための改革案を今年度中に作成することができたのは大変よかった。

4 総合的な学校関係者評価

- ・児童や保護者の対応が多様化するなか、先生たちが組織として教育活動にあたっていることが伝わってくる。武庫小学校がまちづくりのシンボルとして存在できるよう、今後も学校を支えていきたい。
- ・放課後、大人がいない状況で見せる児童の本質の部分をどう育てるか、ぜひそういった視点を持って日々の指導にあたってほしい。
- ・あいさつについても改善の傾向がみられる。自尊感情について徐々にではあるが改善がみられるのは、これまでの取り組みの結果ではないかと考える。
- ・昼の帯時間、武庫っ子活動の時間を確保、朝会から集会から変更するなど、児童のために今までの取り組みを慎重に見直しながらよりよいものをしていこうとする学校の意識が伺える。引き続き、地域からのサポートに力を入れていきたい。

5 評価結果

分野・領域	自己評価			学校関係者評価
	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
道徳 人権教育	・年間指導計画に準じて指導を行う。	度重なる変更等があったが、工夫して計画に沿った指導が展開できた。	他の教科や領域、学校行事等との関連性を考慮し、生活指導と絡めながら道徳性の育成を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情の低迷が気になる。いろいろな活動を工夫して、学校に行きたくなる児童を育てていきたい。 ・人との出会いが人を成長させていく、学校のなかの1シーン1シーンを大切に児童に自信をつけさせていってほしい。 ・「学校が楽しくない」と答えた児童の居場所づくりを意識していってほしい。 ・引き続き、児童の関係をつなぎ、よりよい関係を構築してほしい。
	・自尊感情の高い子どもを育成する。	昨年度より改善傾向にある。「価値発見」の推進及び特別活動実施の結果。	学校行事をはじめとした特別活動の機会を充実させ、役割分担をしっかりと意識させることにより、達成感を持たせる。	
	・差別を許さない、他者を大切にすることを育成する。[あなた・みんな]	ほぼすべての児童が友達を大切にできていると感じている。	他者意識の向上につながるよう、「やさしさの木」等を活用した取り組みを進める。	
研究推進	・主体的、対話的で深い学びが実現できる授業を構築する。	体育科での課題解決に向けた話し合いを重視した。	「対話」のあり方について課題意識を高め、解決の過程を意識させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の学習力を定着させるために、学校が検討し、創意工夫しようとしている姿勢が伝わる。ぜひ、今後もいろいろな取り組みをしながらPDCAを繰り返してほしい。 ・特別活動に研究が変わったことは評価できる。自治的活動を中心に、児童の自尊感情が高まっていくことを期待している。
	・児童の学力を向上させるための手立てを考え実践する。	学習内容が理解できていないと感じる回答がある。	昼に帯時間を設定し、基礎基本の学習力の定着を図る。	
	・授業のユニバーサルデザイン化を進める。	児童一人ひとりに「感じる・わかる・できる」を味わわせる授業づくりができた。	児童一人ひとりが自ら創り出す力を培っていくため、特別活動を研究していく。	
生徒指導	・教職員は生活指導の方針を共通理解し、指導に温度差なく「チーム武庫」として指導にあたる。	あいさつ、話を聞く、時間を守る、が改善傾向にあるがまだ十分ではない。	形を整えるだけでなく、日常の中で繰り返し指導し、習慣化していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年が上がるにつれて、あいさつの質が高まっている。学校での指導がいきいていると感じている。 ・改善の方向性にある「聞き方あいうえお」など、学校として取り組むものがあれば、地域に共有していただき、一緒に児童を育てていきたい。 ・遅刻する児童を見守っているが、それぞれのペースでがんばっている様子が見え、とても良い。
	・保幼中や地域、関係機関との連携を図る。	学校園所連携推進会議において、年間推進計画を立案し、公開授業、合同研修会、公開保育見学など丁寧に連携を図り、情報共有に努めることができた。	学校園所連携推進会議での話し合いを軸にして、幼稚園、中学校と綿密な連携を図る。中学校とは具体的な取り組みを進める。	
	・本校の「いじめ防止基本方針」をもとに学校全体で組織的な取り組みを行う。	問題行動やいじめの解決に組織的に取り組めた。	問題行動を少しでも早く把握し、対応できるよう、組織的な児童理	

			解に努める。	
家庭・地域との連携	・保護者や地域の思いや願いを把握する。	予算を効果的に執行し、児童の活動の充実に資することができた。	学校運営や教育活動について、地域の願いや教育力を活用し、環境整備やゲストを招いた授業等をさらに充実させる。	・ホームページや学校運営協議会にて情報発信がされている。さらに連携を充実させるとともに地域としても学校をサポートしたい。 ・児童にいろいろな出会いを体験させ、視野を広げてやりたい。若い世代のボランティアも増えつつあり、持続可能な活動となることを期待している。
	・コミュニティ・スクールの充実を図る。			
	・地域と連携・協力した取り組みを積極的に進め、地域の人材を積極的に活用する。	効果的な活動が増えた。	教育活動において必要な支援をコーディネーターと連携しながら取り組んでいく。学校との協働的な取り組みをさらに進める。	